



## 寧比曾岳 1121m 1月15日

水野、市橋、柴橋、中村



▲メインの大多賀峠からではなく今回は段戸湖からの往復コースとした。

会では昨年、一昨年と1・2月のこの雪の時期に登っているが、今年は様子が違った。

▲香嵐溪多目的広場へ8時に集合し、段戸湖へ向かう。湖面は年末からの冷え込みで凍っているものの、登山道は前日の雨と高温により雪は全て溶けてなくなっていた。



道中路面が濡れていることを懸念し、全員スパッツを装着して出発するも、結局山頂まで雪はなく、期待していた霧氷はおろかアイゼンの出番もなく下山の途の付く。

楽しみにしていた雪山登山は次回へ持ち越しとなった。 ——— 写真・記録：水野



厳冬の穂高



## ラダック便り・沖

東海支部登山隊 総隊長 沖 允人

## 登頂記録 その2

▲稜線の北側は、急峻な雪と氷の壁で南側はガレの急斜面である。稜線上に前進キャンプを設営すれば登頂は可能と判断し、その後BCに帰着した。

**7月3日** 全員BCで休養。印藤夫妻は体調が悪化、馬と車を急遽手配し夫婦ともにレーに帰った。

**7月4日** 午前7時50分、日本人3名とインド人5名（ナムギャル・ネギ、ピウシ・シャルマ他3名）がBCを出発。High Camp=HC設営地点に9時55分に到着した。HCの位置は7月2日に偵察したコル上部である。この時点で雨柱が接近してくるのを確認。その後、風雨が強まりテントの中で1時間ほど待機し、この日の上部偵察は諦めた。その後荷揚げ要員のインド人3名はBCに下山。テント2張りを設営し、5,600mに日本人3名とインド人2名が宿泊した。

**7月5日** 前夜から天候が思わしくなく、登頂が危ぶまれたが朝までには回復。HCを6時30分に出発。5名が安全のためにアンザイレンして進み**9時5分に Shaldor Ri (5942m) に登頂した。**45分間頂上において写真撮影などをした。Gapo Ri 山頂に続く稜線は急峻で、危険が多いと判断、西から黒雲が接近、天候悪化を予想し下山した。



ベースキャンプにて

## 石塚正夫さん逝去 82歳

長く病氣療養中であったOB会員の石塚正夫さんが、昨年12月21日に逝去されました。

2007年9月のシルクロード・カラコルムの山旅では、元気に活動をされていましたが、その後体調を崩し、長期にわたる療養生活中でした。改めてご冥福をお祈りいたします。 合掌